

授業科目名： 教育原理（中等）	教員の免許状取得のための の 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：古塚 典洋 担当形態：単独
実務内容 （実務家教員の場合）			
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>教育原理の授業を通して、教育が「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という星槎の三つの約束を育て、守り、さらに発展させるものであることを理解する。教育原理の理論も、教育実践と深く結び、教育の課題解決に役立つものであることを授業のなかで確認する。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>以下の項目について認識を深める。</p> <p>(1) なぜ教育原理を学ぶのか—教育は人間と社会にとってなぜ必要か</p> <p>(2) 教育の本質と目標—義務教育とは</p> <p>(3) 子どもの発達と学習—子どもの権利・学力・学歴とは</p> <p>(4) 学校のしくみ—教育制度・教育課程・生活指導</p> <p>(5) 教育の歴史①—近代学校の成立と歴史的展開</p> <p>(6) 教育の歴史②—戦後の教育のあゆみ</p> <p>(7) 現代の教育をめぐる問題—学習指導要領を中心に</p> <p>(8) 教員の資質—教職の意義と課題</p> <p>(9) 教育思想—近代の西洋の教育思想から戦後の日本の教育思想まで</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教え育てる営みの源を示すのが教育原理である。教育原理は教育の目標や目的、歴史や制度、具体的な内容や方法や計画などを根元から支えてくれる。この科目では、教え育てる営みとそれにかかわる諸問題の中心を理解し実践できるようにするための基礎的な知識を身につけることをねらいとする。</p> <p>教え育てる営みのしくみや意味を、さまざまな立場に身をおいて全体として理解する。教育の目標や目的、社会と教育と個人のかかわり、思想や歴史、教育課程や学習指導要領、教師の資質・能力や仕事などについて学ぶ。</p> <p>繊細で不確実で複雑なバランスのうえに成り立つ「他者を教えること」や「他者に学ぶこと」にじっくりと向き合いながら、自分なりの問いを立て自分のことばで答えをみつけていく態度を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教え育てることの原点</p> <p>第2回：人が人を教え育てること</p> <p>第3回：社会にとって必要な教育</p> <p>第4回：個人にとって大切な教育</p> <p>第5回：子どもが育つということ</p>			

第6回：教育と学校の歴史①—近代教育思想の誕生  
第7回：教育と学校の歴史②—教育を受ける権利  
第8回：教育と学校の歴史③—公教育と学校制度  
第9回：学校制度を考える①—教育課程  
第10回：学校制度を考える②—学習指導要領  
第11回：教師の仕事①—資質と能力  
第12回：教師の仕事②—子どもを理解する  
第13回：教師の仕事③—よい授業をつくる  
第14回：教師の仕事④—学び続ける教師像  
第15回：まとめ—教え育てることと学校の未来を考える  
定期試験

#### 教科書

勝野正章、庄井良信『問いからはじめる教育学』有斐閣ストウディア、2015年

#### 参考文献

- (1) 河合隼雄『子どもと学校』岩波書店、1992年
- (2) 三輪建二『おとなの学びとは何か—学び合いの共生社会』鳳書房、2018年
- (3) I・ラシュトンほか『教師の省察的実践—学校教育と生涯学習』鳳書房、2018年
- (4) N&K・アップルヤード『教師の能力開発—省察とアクションリサーチ』鳳書房、2018年
- (5) 中央教育審議会答申『新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して』2008年2月19日。[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2008/12/18/080219\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2008/12/18/080219_01.pdf)
- (6) 文部科学省生涯学習政策局政策課教育改革推進室『第2期教育振興基本計画』2013年6月25日。[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/keikaku/detail/1336379.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/detail/1336379.htm)

#### 学生に対する評価

レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）の割合で総合して評価する。